



未来の保育所へ思う事



理事 小畑 くるみ

5月に入り、さわやかな風吹き、保育現場も少し落ち着いた頃でしょうか？保育園は3月31日迄が前年度、4月1日から次年度に変わり、部屋の移動や職員との面談、保護者との面談、卒園式と入園式等、本当に忙しいですね。毎年、ホッとするのは今頃だと感じています。私自身、この4月から息子が大学生、娘が中学生になり、母親業の肩の荷が少し下りたような気がしています。2人の卒業式を終えた時点で、色々と振り返るチャンスに丁度この原稿を書くことになりました。

息子が5か月目で、近隣の保育園に入園する事が決定した時が私の園長1年目スタートになります。高齢出産の判を押された母子手帳を眺めながら、新米ママと新米園長のスタートでした。育てやすいというわけではなく、どちらかという手のかかった息子の手を引き保育園に通い、預かる側と預ける側を日々過ごしていました。当時お世話になった先生方には本当に感謝しております。その中で様々な発見や働きながら子を育てる事の難しさ等の問題点を感じていました。初めに、入園して暫くすると感染症の洗礼をうけました。全力で仕事に向き合いたいの、その時に限って熱を出してしまいます。熱が下がらない息子に解熱剤を飲ませると病院で医者に飲ませすぎだと怒られ、途方に暮れていました。

その後家庭の事情で、幼稚園に通う事になりました。ここでもまた色々な事を学びました。幼稚園の保護者は、希望して入園した幼稚園にこどもを連れて行く事が目的なので、行事が辛くて子どもが嫌がっていても、手を引いて登園させていました。(今は違うかもしれませんが、幸い息子は楽しんで通っていました。)保育園は、園にいたことが楽しくなければ保護者が安心して出勤できないので、その違いには驚きました。息子が年長の時に娘が誕生し、高齢出産の代表のような年齢での出産に、周りが驚いていたのを覚えています。娘は0歳で保育園に入れず、保育ママに1年間預けました。私の住んでいる地域でこの頃本当に待機児が多く、0歳児は狭き門でした。1歳で保育園に入れましたが、自宅から車で20分程度の距離でした。それでも入れたことに感謝をして通っていました。当時お世話になった先生方、ありがとうございました。そんな経験から地域に保育所が足りていない事を実感し、保育所を設置しなければと強く思いました。その後公募にて約3年後に保育所を開所するに至りました。

当時に比べて、現在は保育園も幼稚園も大きく変化し、認定こども園・認証保育所等も加わりました。そして、待機児も減少し、定員未充足の問題も出てきています。時代の変化と共に、預ける側・預かる側・行政も変化が必要ですね。未来の子どもたちの為に私たち保育所が何をすべきなのか、何をしてはいけないのか、熟慮して未来の保育園へつないでいきたいと思えます。